



## 今回は 探究活動を生かした進路実現 その7 の報告です。

### ◇ 番野みらいさん（創価大学教育学部教育学科）の体験記！

#### おもな活動記録

- ・2017年度 美濃加茂市多文化共生イベント スタッフ参加
- ・2018年度 全国教育模擬国連 参加  
ベトナム研修(ファンボイチャウ高校・フエ大学訪問等) 参加
- ・2018～19年度  
授業アシスタント(小中学校) 参加

私は課外活動をしていく中で進路を見つけ、課外活動での経験で今までより自分に自信がつかれたことが、創価大学教育学部教育学科への合格を導いたと思っています。ここでは皆さんに一つの例として、私がどのような思いでどのような課外活動をしてきたのか、そしてどのように教師への道へ進もうと考えたのかを記します。

#### SGH活動(1年)

1年生のSGHでは、中濃地区へのインバウンド（外国人を呼び込むこと）をテーマにどのようにすればインバウンドできるのかグループで話し合い、考えたことを実行しました。先生には実行するための手助けをしていただきました。活動のためにお世話になる方々とやり取りする中で、礼儀、言葉遣い、観察力などの社会的な学びがありました。



#### 模擬国連

1年生の終わりから国際関係の仕事に就きたいと考え始め、とりあえずもっと経験を増やそうと参加してみました。模擬国連は2日間に渡って行きます。その下準備が本当に大変でした。資料を作りたくても、意味の分からない専門用語の連続に悩まされたり、自分が大使になる国情報があまり出てこなかったりして物事がスムーズに進みません。訳が分からないまま当日を迎えてしまいました。



他の学校では模擬国連部があるとのことで、何度か模擬国連を経験したことがある子たちが仕切って話を明確にしてくれました。私たちは情報不足にならないように、その話を聞くだけで必死でしたが、そんな中でも知識量やコミュニケーション力の大切さ、ディベート力、また意見が2つに分かれたときの和解法など、将来必ず必要となる技術を具体的に聞き取ることができました。

## ベトナム研修

国際関係の中でも、特に発展途上国での活動に興味があった私は、2年生の時にベトナム研修に参加しました。今ベトナムは急速に発展をしている国ではありましたが、交通整備が十分とは言えない状態でした。

実際に自分の目で見たことは、どれだけ人から聞くよりも財産です。ベトナム人は温厚、気さくで話やすく、すぐに仲良くなれました。私たちと同じように英語が第二言語なのに、交流した同年代の高校生はペラペラで、今は日本語を勉強している最中でした。プレゼンも私たちと違って暗記した感じはない。まるで母国語のようにプレゼンしている姿を今の自分を比べた時、英語さえ片言な自分を情けなく感じました。別日に交流してできたフェ大学の学生の友人とは、特に仲良くしてもらい、今でもよくビデオ通話をしています。

英語という世界共通言語の存在に感謝もし、たった5日間でしたが、いろんな学びがぎっしり詰まった5日間になりました。



## SGH活動を通して

私は SGH のおかげで、様々なことを実際の体験で知って学ぶだけでなく、様々な人と関わることができました。ベトナム研修の話でもあったように、何人かの方とは活動が終わった今でも連絡を取らせていただいています。

私は2年生の SGH 活動の中で、子ども兵や児童労働のために苦しむ子どもたちが世界に多く存在することを知りました。子どもが好きな私はその話を聞いて、そのような子どもたちの力になりたいと思うようになりました。

## 進路選択

私が春から通う創価大学教育学部教育学科には、国際コースという発展途上国の教育支援活動を目指すコースがあります。私は教育を通して、子どもたちを支援していくことを決めました。

最後の決め手は校長先生が企画してくださった「授業アシスタント」でした。授業アシスタントとは、中濃地区の教師の数が減少していることに着目した校長先生が、生徒が少しでも教員という仕事に興味持ってくれたらと小学校や中学校にお願いして、定期テスト最終日の午後から実際に授業に入ってサポートをさせてもらうというものです。ここで私は子どもたちと触れ合うことの喜びだけでなく、教える楽しさも感じることができました。

## 合格が決まってから

家庭学習期間に入る前、もう既に大学受験を終えていた私は、その期間を有効に使おうと、校長先生に10日間の授業アシスタントをしたいとお願いしました。校長先生も快く引き受けてくださいました。そして私は、小中学校それぞれ5日間ずつお世話になり、貴重な学びの時間をいただきました。

3月には、1年生の時の SGH でお世話になった加茂農林高校 OB（現在は名古屋市立大学在籍）のダルモ・マイケルさんの紹介で、在住外国人の子でまだ日本語が話せない子どもたちが集

まる「のぞみ教室」で、また新たな子どもたちと出会い触れ合う予定もあります。そんな機会もSGH活動でのマイケルさんとの縁があったればこそ、出会いの広がり皆さんにつくっていただけてありがたく思います。

## 最後に

勉強よりも課外活動が好きな私がこれらの活動に参加したことは、大学の推薦の面接ではとても強い味方になりました。先生の面接指導も心強く、自信を持って面接官に自分のことをアピールすることができました。学校ではいろんな先生からたくさん指導を受けました。時に厳しい指導も受けたけど、その中にはいつもなにか温かい愛情がありました。私はこんなにも素敵なお先生方の元で3年間学ぶことができ幸せでした。最高の友にも恵まれました。卒業を迎える今、両親とも「関高校に来て本当によかったね」と話しています。

私は後輩の皆さんに、たくさんの挑戦と経験を重ねることを強くお勧めします。些細なことでもいい。もしかしたら思わぬところに何か転がっているかもしれませんよ。